

オンラインZoomセミナー2021

学び方が変わると人生が変わる

2021年8月18日

Vision&Education,Ltd.

自己紹介 木村貴志



1962年7月9日生まれ

Vision&Education,Ltd.代表取締役
バッカーズ寺子屋塾長 16期
バッカーズ九州寺子屋塾長 13期

テーマは「志の教育」



学び方が変わると人生が変わる

- 第1講座 「志の大切さに気づく力」を育む 2021, 8,18
- 第2講座 「気づく力」を育む 2021, 9,1
- 第3講座 「利他の心」を育む 2021, 9,15
- 第4講座 「自分らしく生きる力」を育む 2021, 9,29
- 第5講座 「自分を支える言葉の力」を育む 2021,10,6
- 第6講座 「行動する力」を育む 2021,10,20
- 第7講座 「文化の大切さに気づく力」を育む 2021,11,17
- 第8講座 「感謝心」を育む 2021,11,24
- 第9講座 「講座全体の振り返り」 2021,12,1

• 約3ヶ月のコース。

受講に際してのお願い

- ・ **1. アウトプット（話す・書く）を前提としたインプット（聴く・読む）を。**
- ・ できれば、30分間は、皆様とのやりとりをしたいと考えています。
- ・ **2. アンケートにご協力下さい。**
- ・ 書式は問いません。
- ・ 私宛てのメッセージとして、また、ご自身の振り返りとして、お願い致します。
- ・ いただいたメッセージには、必ずお返事を致します。

第1講座 「志の大切さに気づく力」を育む

- ・ 1. なぜ「志の大切さ」に「気づく力」を育むなのか。

- ・ 「多く的人是気づかないから。気づきたくないから。」
 - ・ なぜ？

- ・ 1. 学び方の問題
 - ・ 2. 言葉の使われ方と定義の問題
 - ・ 3. 生き方・考え方の問題（1と重なる）

学び方について考えてみる

枝・葉・・・知識・スキル

習得する

見える

光・雨・風

果実・・・仕事の成果

幹・・・インプット・アウトプットの力
(聴く・読む・書く・話す)

見えない

水・養分

考える

良樹細根、大樹深根

根・・・価値観（人生観（志）・人間観・死生観・世界観・仕事観・教育観・プリンシプル）
教養（自然・歴史・文化・芸術、時事問題、その他）



私たちビジネスパーソンの土台は何か

1. 聞き流す
2. 読まずに眺める
3. 話したくない
4. 書きたくない
 - ・ 自分中心
 - ・ 他人事
 - ・ 意見がない

社会人になって
身に付けていくこと

学校教育で身についたこと
 $6 \cdot 3 \cdot 3 = 12$ 年間

家庭で身についたこと

- ・ 36歳の人では
人生の $1 / 3$
- ・ 常に今に影響し
ている。
- ・ 過去ではない。

第1講座 「志の大切さに気づく力」を育む

- ・ 1. なぜ「志の大切さ」に「気づく力」を育むなのか。

- ・ 「多く的人是気づかないから。気づきたくないから。」
 - ・ なぜ？

- ・ 1. 学び方の問題
 - ・ 2. 言葉の使われ方と定義の問題
 - ・ 3. 生き方・考え方の問題（1と重なる）

「志」を辞書で調べてみる

2. 言葉の使われ方と定義の問題

(デジタル大辞泉)

- ・ ㊦ある方向を目ざす気持ち。心に思い決めた目的や目標。
- ・ 「志を遂げる」「事、志と異なる」「志を同じくする」
- ・ 「青雲の志を抱く」

- ・ ㊧心の持ち方。信念。志操。「志を高く保つ」
- ・ 「志操」固く守って変えない志。自分の主義や主張などを固く守って変えない心。
- ・ 「志操の堅固な人」

- ・ でも、イメージは。「古い」「難しそう」「楽しくなさそう」「堅苦しそう」「めんどくさそう」

志はどのように語られていたか（紀元前）

・ 『論語』 学而

・ 「子曰く、吾十有五にして学に志す。三十にして立つて。四十にして天命を知る。六十にして心欲する所に従ひて矩を踰えず。」

・ 孔先生はおっしゃいました。

・ 「私は十五歳のときに学問を志し始めました。」

・ 三十歳にして独り立ちをし、

・ 四十歳で迷うことがなくなり
ました。

・ 五十歳のときに天命を理解し、

・ 六十歳のときに人の意見を素
直に聞けるようになりました。

・ 七十歳の時にやっと自分の思
うままに行動をしても、人の思
道を踏み外すことがなくなり
ました。」と。



志はどのように語られていたか（大正）

- 故郷（ふるさと）

- 兎追いし かの山
- 小鮒釣りし かの川
- 夢は今も めぐりて
- 忘れがたき 故郷

- 如何に在ます 父母
- 恙なしや 友がき
- 雨に風に つけても
- 思い出ずる 故郷

- 志を はたして
- いつの日にか 帰らん
- 山は青き 故郷
- 水は清き 故郷

死語になるということ

・ 1. その概念が失われるということ。自然・文化が減び行くこと。

・ プリンシプル

・ 大説  小説

・ 志

- ・ プリンシプル（原理・原則）を心に刻む。
- ・ 価値判断の基準を持つ Ⅱ 何が美しいかを知る。

・ バツカーズ少年教育10 原則

- ・ 一、ウソごまかしをしない。誰が見ていなくても「お天道様」が見ている。
- ・ 二、自己責任とは。人のせいにしない。自分の判断力と決断力を持つ。
- ・ 三、よく働き、よく学び、よく遊ぶ。よい競争心を持つ。
- ・ 四、感謝心を持つ。
- ・ 五、人に迷惑をかけない。良いマナーを持つ。
- ・ 六、自分に厳しく、人に寛大に。
（その逆の、自分に甘く人に厳しい人は本当にカッコ悪いよ。）
- ・ 七、人のためになろう、国のためになろう、世界のためになろう。
- ・ 八、いつもユーモアの心を持つ。
- ・ 九、人をタイトルや外見や名前や住んでいるところで見めるのではなく、いつもその本人で見よう。本物とは何のことか考えよう。
- ・ 十、国際人とは何かを考えよう。自分の国を愛し、他の国の人も本当の友達になれ、他人のことも考えられることが国際人だ。

真・善・美 理想が人を強くする。明るく元気にする。

志は、今、どのように語られているか。



ソフトバンク社長（当時） 孫正義氏

志とは何か

- ①夢

- 語源は「寢目」（いめ）
- 私的なことから公的なものまで幅広く使う。
- 思いつきでも言える。儚く消えることも多い。

- ②ビジョン

- 具体性、計画性がある。
- 数字が入る。

- ③志

- 語源は「心指す」
- 人々のため、社会のため。
- 考え抜いた信念。

目的・目標を持つ大切さ

- ・ 家  会場
- ・ 目標
- ・ ①方向、②手段・方法、③時間、④お金、⑤その他
- ・ 目標があるから、①～⑤は決まる。

- ・ 私  将来の目標
- ・ 生 死

- ・ 目標がなければ、進むべき方向は定まらない。
- ・ 進む方法も選択できない。
- ・ 「私は、どこからどこに行こうとしているのか？」

どうすれば志を立てられるのか

資料「橋本左内に学ぶ志が立つとき」



- ①読書
 - 先人の生き方に学ぶ。
- ②師友
 - 先生、周りの大人たち、友人から学び、将来を考える。
- ③逆境
 - 苦しくても負けない。困難に負けない心、ピンチはチャンスと思う心。
- ④感激
 - 感動は全てのきっかけ。
 - 自分の好きなこと、得意なことを見つけ、とことん追求してみる。
 -
 -

橋本左内『啓発録』立志

- 数え年15歳（満年齢で14歳）の橋本左内は、どう考えたか。
- 『啓発録』立志の箇所を丁寧に読む。

第1講座 「志の大切さに気づく力」を育む

- ・ 1. なぜ「志の大切さ」に「気づく力」を育むなのか。

- ・ 「多く的人是は気づかないから。気づきたくないから。」
 - ・ なぜ？

- ・ 1. 学び方の問題
- ・ 2. 言葉の使われ方と定義の問題
- ・ 3. 生き方・考え方の問題（1と重なる）

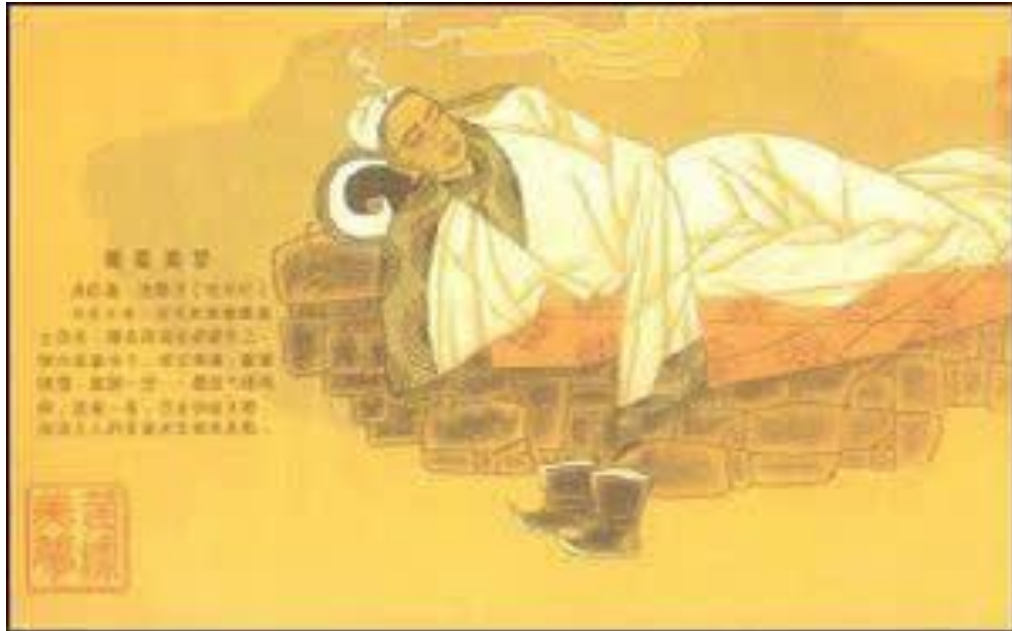
なぜ志なのか？

- ・ 目的、目標がなければ、面白くない。（意義を感じられない）
 - ・ 目的、目標がなければ、やらされるしかない。（自分の人生を生きる）
 - ・ 考え続け、探し続けていくしかない。（答えを出すのは自分）
-
- ・ 志の大切さを学ばないままに大人になっていく。
 - ・ 人々のため、社会のためという利他の心が人を強くする。
 - ・ （ハサミムシ、鮭。）

なぜ「志」を考えないのか

- 子どもの頃から、目の前のこと（受験のこと。仕事のこと。）しか
- 考えない習慣ができている。生き方の問題。
- (1) 人間観を考えていない。
 - 砂粒のような「個」としての存在。利己的。公を考えない。
 - 次の世代への願いを持つ。「ゆずりは」「命の連続」
 - なぜ、人は頑張れるのか。幸せになれるのか。
- (2) 人生観を考えていない。
 - 「人生二度なし」（森信三先生の言葉）

人生二度なし 邯鄲の夢 / 頼山陽の述懐



邯鄲之夢（かんたんのゆめ）

- 唐の盧生という人が、旅の途中の邯鄲の町で、道士から出世が叶うという枕を借りて寝ると、出世して財力や権力を手に入る夢を見た。

- 目が覚めると、宿の主人に頼んでいた、粟のかゆが出来上がった、いけないほどのわずかな時間しか過ぎていなかった。

- 人の世界での繁栄は儚いということのたとえ。
- または、人の人生が儚いことのたとえ。

述懷 頼山陽

十有三春秋
逝者已如水
天地無始終
人生有生死
安得類古人
千載列青史

・五言古詩

【書き下し】

十有三春秋

逝く者は已に水の如し

天地始終無く

人生生死有り

安んず古人に類して

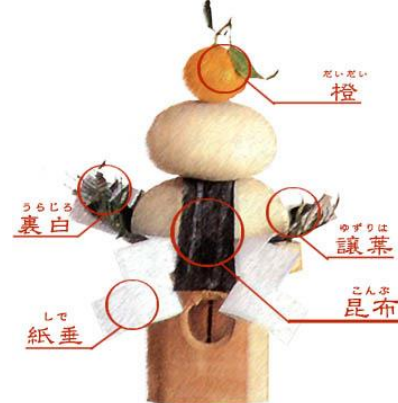
千載青史に列するを得ん

【通釈】

十三歳となつて、これまでを振りかえってみると、月日は川の流れのように過ぎ去つてもう二度とかえつては来ない。天地は永遠であり、始めも終わりも無い。しかし、人間には必ず生があり、死がある。それならば、なんとかして歴史上の偉人のように、自分も悠久の歴史の上に名を連ねたいものだ。



ゆずり葉 河井醉茗



子供たちよ

これは譲り葉の木です

この譲り葉は

新しい葉が来ると

入り代わってふるい葉が落ちてしまうのです

こんなに厚い葉

こんなに大きい葉でも

新しい葉が出来ると無造作に落ちる

新しい葉にいのちを譲って――

子供たちよ

お前たちは何を欲しがらないでも

凡てのものがお前達に譲られるのです

太陽の廻るかぎり

譲られるものは絶えません

輝ける大都会も

そっくりお前たちが譲り受けるのです

読みきれないほどの書物も

みんなお前たちの手に受取るのです

幸福なる子供たちよ

お前たちの手はまだ小さいけれど――

世のお父さん、お母さんたちは

何一つ持ってゆかない

みんなお前たちに譲ってゆくために

いのちあるもの、よいもの、美しいものを

一生懸命に造っています

今、お前たちは気が附かないけれど

ひとりでいのちのちは延びる

鳥のようにうたい、花のように笑っている間に

気が附いてきます

そしたら子供たちよ

もう一度、譲り葉の木の下に立って

譲り葉を見るときが来るでしょう

歴史・・・生命の連続

1人	2000年	生まれ	(平成12年)		
2人	1970年	生まれ	(昭和45年)	1970年	万国博
4人	1940年	生まれ	(昭和15年)	1940年	日独伊三国軍事同盟
8人	1910年	生まれ	(明治43年)	1910年	日韓併合。大逆事件。
16人	1880年	生まれ	(明治13年)	1880年	自由民権運動激化
32人	1850年	生まれ	(嘉永3年)	1853年	ペリーの来航
64人	1820年	生まれ	(文政3年)	1819年	小林一茶「おらが春」
128人	1790年	生まれ	(天明10年)	1787年	寛政の改革
256人	1760年	生まれ	(宝暦10年)	1760年	賀茂真淵「万葉考」
512人	1730年	生まれ	(享保14年)	1716年	享保の改革
1024人	1700年	生まれ	(元禄13年)	1703年	近松門左衛門「曽根崎心中」

累積2046人の命。本当は、砂粒のような「個」ではない。

なぜ「志」を考えないのか

- 子どもの頃から、目の前のこと（受験のこと。仕事のこと。）しか
- 考えない習慣ができている。生き方の問題。
- (1) 人間観を考えていない。
 - 砂粒のような「個」としての存在。利己的。公を考えない。
 - 次の世代への願いを持つ。「ゆずりは」「命の連続」
 - なぜ、人は頑張れるのか。幸せになれるのか。
 - 先人の生き様に学ぶ大切さ。
- (2) 人生観を考えていない。
 - 「人生二度なし」（森信三先生の言葉）

学び方について考えてみる

枝・葉・・・知識・スキル

習得する

見える

光・雨・風

果実・・・仕事の成果

幹・・・インプット・アウトプットの力
(聴く・読む・書く・話す)

見えない

水・養分

考える

良樹細根、大樹深根

根・・・価値観（人生観（志）・人間観・死生観・世界観・仕事観・教育観・プリンシプル）
教養（自然・歴史・文化・芸術、時事問題、その他）



私たちビジネスパーソンの土台は何か

1. 聞き流す
2. 読まずに眺める
3. 話したくない
4. 書きたくない
 - ・ 自分中心
 - ・ 他人事
 - ・ 意見がない

社会人になって
身に付けていくこと

学校教育で身についたこと
 $6 \cdot 3 \cdot 3 = 12$ 年間

家庭で身についたこと

- ・ 36歳の人では
人生の $1 / 3$
- ・ 常に今に影響し
ている。
- ・ 過去ではない。

第1講座 「志の大切さに気づく力」を育む

- ・ 1. なぜ「志の大切さ」に「気づく力」を育むなのか。

- ・ 「多く的人是は気づかないから。気づきたくないから。」
 - ・ なぜ？

- ・ 1. 学び方の問題
 - ・ 2. 言葉の使われ方と定義の問題
 - ・ 3. 生き方・考え方の問題（1と重なる）

第1講座 「志の大切さに気づく力」を育む

- 1. 「志の大切さ」を知るために。
 - (1) 「志」という言葉の定義を知る。正しく使う。死語にしない。
 - (2) 先人の生き方、行動の根底には「志」があることを知る。
 - (3) 「人生二度なし」ということを真に理解する。余命30年。余命30日。
 - (4) 学び方を変える。
 - (5) 考え方を磨く。根っ子を育てる学問を。
 - (6) 来し方（歴史）、行く末（未来）を考える。（個人、家族、会社、国家）
-

志について私が思っていること

- ・ 1. 志とは、自分が信念を持って、世の中のために（多くの人々のため、未来のために）、不退転の決意で実現させたいと心から願っていること。
- ・ 2. 志に生きるとは、天から与えられた使命（天命）に気づき、二度とない人生において、それを全うするために、全身全霊で取り組む日々を過ごすこと。
- ・ 3. 天命に気づき、志を得るためには、「読書・師友・逆境・感激」が必要不可欠であり、学び続け、チャレンジし続けなければならない。
- ・ 4. 志を実現させていくためには、人格を磨かなければならない。その方法も、「読書・師友・逆境・感激」の四つである。

・ 二度とない人生を、明るく、楽しく、充実したものに！

学び方が変わると人生が変わる

- 第1講座 「志の大切さに気づく力」を育む 2021, 8,18
- 第2講座 「気づく力」を育む 2021, 9,1
- 第3講座 「利他の心」を育む 2021, 9,15
- 第4講座 「自分らしく生きる力」を育む 2021, 9,29
- 第5講座 「自分を支える言葉の力」を育む 2021,10,6
- 第6講座 「行動する力」を育む 2021,10,20
- 第7講座 「文化の大切さに気づく力」を育む 2021,11,17
- 第8講座 「感謝心」を育む 2021,11,24
- 第9講座 「講座全体の振り返り」 2021,12,1